

同窓会会報

熊本大学医学部保健学科 第3号



熊本大学医学部保健学科第4回同窓会総会後の記念写真（平成18年8月4日）

目次	同窓会会長あいさつ	1
	保健学科長あいさつ	1
	卒業生からの言葉	2
	保健学科教員の紹介	4
	特看の同窓会への加入	4
	同窓会総会議事録	5
	特別講演の概要	6
	学生からの言葉	6
	オープンキャンパス	7
	同窓会会則・細則	8
	同窓会役員	9
	編集後記	9

同窓会総会、特別講演 および情報交換会のご案内

平成20年8月2日（土）13時より、第4回保健
学科同窓会総会、特別講演ならびに情報交換会
を開催いたします。場所は昨年同様、楷樹会館
です。皆様のご参加をお待ちしております。なお、
詳しくは同窓会ホームページ（[http://www.
hs.kumamoto-u.ac.jp/%7Edohsohkai/](http://www.hs.kumamoto-u.ac.jp/%7Edohsohkai/)）
に掲載いたします。

熊本大学医学部保健学科と同窓会の発展

保健学科同窓会会長 **荒木 不次男** (熊本大学医学部保健学科・放射線技術科学専攻)

保健学科同窓会が設立して3年半が経過し、平成20年3月には保健学科の最初の卒業生を送り出します。保健学科4年生では、短大時代に行うことができなかつたりサーチトレーニング(卒業研究)が加わり、自ら考えて問題を解決していく能力を養っています。就職が厳しくなっている昨今では重要な事柄であり、保健学科で学んだ教養と知識で就職戦線に打ち勝って、病める患者様のために活躍してくれることを期待しています。

また、平成20年4月には大学院修士課程(熊本大学大学院保健学教育部保健学専攻)の設置が決定しています。本修士課程は、学部学生はもとより、社会人入学者を対象にしたカリキュラムも組まれておりますので、多くの同窓会会員の方の社会人入学を期待しております。

以上のように、医療技術者育成のための教育システムは益々高度化し、急激に変革してきています。保健学科同窓会も平成19年4月には教育学部特別教科(看護)教員養成課程同窓会を加え、大所帯になってきましたが、中身の充実にはまだ少し時間がかかるようです。

会員の皆様への重要な報告としまして、医療技術短期大学部が保健学科の学年進行に伴い、平成19年3月の専攻科助産学特別専攻の卒業生を最後に発展的に閉学したことです。とくに閉学記念祝賀会は開催されませんでしたでしたが、記念誌が発刊されることになっております。昭和52年10月の開学から約30年間に渡って、医療技術者を育成してきました。また、教育学部特別教科(看護)教員養成課程も平成19年3月に閉課程となり、すべての看護教育は保健学科で行われることになりました。

最後に、これまでに多くの会員の方々に頂いた多大な寄付金にお礼を申し上げます。皆様からの気持を大事にして、同窓会発展のために使用させていただきます。また、会員の皆様の今後のご発展を心より祈念いたします。

保健学科の4年間経過しての現況

保健学科長 **木原 信市** (熊本大学医学部保健学科 看護学専攻)

平成16年4月から第一回生を迎い入れて以来、平成19年度現在、医学部保健学科4学年が日夜勉学に励んでおり、また教職員一同、学生の成長を緊張感と期待をもって学生指導にあたっております。当面の目標は4年生の就職と国家試験合格であります。就職に関しましては各専攻の就職担当の先生のご尽力により徐々に内定数が増えてきており、特に看護学専攻におきましては、7月の時点で30数名が熊本大学医学部附属病院に内定しております。初の国家試験に関しましては、合格率100%を目指して指導している現状でご

ございます。

保健学科の今後の改組といたしまして、2年前から準備しておりました大学院修士課程（熊本大学大学院保健学教育部保健学専攻）が、平成19年12月3日付けで正式に認可され、平成20年度から学生の募集が開始されます。設置に至るまでに高い山々や深い谷がございましたが、先生方のご協力で無事に乗り越えて、目的が達成されましたことに、責任者としてホッとしているところでございます。

その概要に関しましては、ホームページ等をご覧いただければ幸甚に存じます。「保健・医療・福祉分野における高度専門職業人、教育・研究者の養成」を目的とした大学院でありますので、医療現場の社会人の方が多数入学してこられますことを期待しております。社会人のためのカリキュラムも用意しております。

保健学科同窓会の皆様には、学生の教育環境のよりよい改善のため、熊本大学基金等へのご寄付を通して、今後とも物心両面でのご支援を宜しくお願い申し上げます。

最後に、熊本大学医学部保健学科同窓会と同窓会の皆様のご発展を心より祈念いたしまして挨拶いたします。



卒業生からの言葉

第29回熊本大学医学部附属看護婦・助産婦学校同窓会総会を終えて

熊本大学医学部附属病院看護部長
右田香魚子（医学部附属看護学校 昭和50年卒）

私は医学部附属看護学校の25期生で、平成18年4月から附属病院の看護部長を務めています。保健学科同窓会の皆様には本当にお世話になっていません。

看護婦・助産婦学校同窓会は、10月21日に『第29回同窓会総会』を開催しました。本同窓会は、現在は2年に1回西暦の奇数年に開催していますが、毎年開催していた時期もあり同窓会の歴史としては53年になるそうです。

今回から総会後に講演会を企画し、初回は私が『熊本大学医学部附属病院の今』というテーマで講演を行いました。参加者の7割が現役を退かれた方々でしたので、大学病院の様変わりおよび看護体制の変化に一様に驚かれていました。

講演会後の懇親会では、卒後50年経過しても「○○ちゃん」と呼び合われて昔話に花が咲き、「同

じ釜の飯」仲間の絆は固いことを目の当たりにしました。

今回出席された最高年齢者は82歳。そして、最後の卒業生である29期生がついに50歳を迎え、出席者も2年前は114人、今年は86人と年々減少しています。本同窓会はもう高齢化まっしぐら…単独の総会があと何年続けられるのかというのがもっぱらの話題でした。田中シゲ子会長は挨拶の最後に「できる限り何十年も続けましょう」と皆を励ましておられましたが、五高同窓会解散式が話題になったばかりでしたので、感慨深いものがありました。

第4回熊本大学医学部保健学科同窓会総会に参加して

熊本大学医学部附属病院 医療技術部 診療放射線部門
白川 裕一（診療放射線技術学科 平成3年卒）

今回の総会では議長を勤めさせていただいた。総会の内容としては、1. 平成18年度事業報告 2. 平成18年度決算報告・監査報告 3. 平成19年度

事業計画（案） 4. 平成19年度予算（案） 5. その他 であったが、今回教育学部特別看護科同窓会の保健学科同窓会への加入それに伴う同窓会会則の一部改正の承認が大きな目玉であった。そのほかにも、もっと外部にアピールできるものを行い同窓会の存在を印象付けようといった意見や同窓会費の回収率アップ改善策などいろいろな内容について熱い討論が行われ、総会予定終了時刻を15分もオーバーしていた。

総会后、宮崎光二セバスチャン先生によるがん代替療法最前線についての講演がおこなわれた。病气、特にがんにおいては病変部だけの治療ではなく体質自体の改善・治療が大事で、「人間の行動は全てイメージから始まる。治るときも治るイメージから始まる」と気持ち（マインド）の持ちようを力説された。講演の最後には“どんなにきつく悲しくても笑うことで前向きに生きるエネルギーが生まれる”を実践すべくみんなで立ち上がり体いっぱい笑う特訓があった。

今後も医療人としての資質を高める催し物や、学生たちの勉学の支援、施設間の技術の向上・標準化のための活動を同窓会が中心となって行っていただけたらと希望する。

今回の同窓会総会の参加人数は少なく熊本大学医学部附属病院と保健学科の職員、学生がほとんどだったことが残念であった。職種・施設の異なる医療人が集合する機会はめったにないのだから次回からは同窓会総会の告知を徹底してもらい、いろいろな施設の方々に参加して頂きご意見を頂戴したいものである。

メタボサンマ!?

済生会熊本病院

春田 昭一（衛生検査技術学科 昭和59年卒）

今年の秋刀魚はメタボサンマというそうで・・・とりわけ、焼肉でいえば、グラム〇千円の特上ロース？。他には、霜降り特上馬刺し、フォアグラ、大トロ・・・。別にグルメの特集って訳ではありませんが、この「メタボ」という言葉、いまでは小学生でも知ってますし、2005年流行語大賞にも選ばれたほどですから。

正確には皆さんもご存知のとおり「メタボリックシンドローム」のことですが、厚生労働省では、内臓脂肪症候群と呼称するとしていますように、おなかのぽっこり出た、お父さん（決してお父さんだけじゃないですけど）をイメージする方も多いことでしょう。まさに、豊満飽食の時代が生んだ不幸な産物といえましょう。

このメタボリックシンドロームは、ほおっておけば国民医療費の約20%を占めている循環器系疾患にもつながり、その対策として来年度からは特定保健指導・特定健診が始められます。一言で言えば、腹囲測定が追加になったことや、検査データにある程度異常のある方に対して、保健師、栄養士による指導があり、改善が認められない場合、ペナルティが課せらるるとも言われています。（来年度から、保健師の活躍する場が増えることでしょう。）えっ、腹囲測定？と、あわてて、自分のおなかを見つめたあなた！！。忘年会と新年会は終わってしまったけれど、まだ来年度の健診までは、まだ時間がありますよ。思い当たる方は、これからが大事ですね。でも、決して無理なダイエットは禁物です。

保健学科教員紹介

◆看護学専攻

【基礎看護学講座】

教授：蔦川忠久、森田敏子
講師：木子莉瑛、永田まなみ
助教：有松 操
助手：南家貴美代

【看護教育学講座】

教授：花田妙子
准教授：角田俊治
助教：田上美季

【臨床看護学講座】

教授：木原信一、前田ひとみ、宇佐美しおり
准教授：田中紀美子、谷口まり子
助教：梅木彰子、柊中智恵子、村上美華
服部多美子

【母子看護学講座】

教授：服部新三郎、田島朝信、山内葉月
宮里邦子
准教授：坂梨京子
講師：寺岡祥子
助教：生田まちよ、千場直美、吉田佳代

【地域看護学講座】

教授：上田公代、西阪和子

准教授：東 清巳、永田千鶴
助教：石原千晴、根本博代、松本佳代

◆放射線技術科学専攻

【医用理工学講座】

教授：桂川茂彦、富吉勝美、矢田 燦
准教授：阿部 誠、檜垣 強
助教：船間芳恵、米田哲也

【医用画像学講座】

教授：松本政典、荒木不次男、尾道三一
富口静二、佛坂博正
准教授：島村正道、吉田日出輝

助教：肥合康弘

◆検査技術科学専攻

【構造機能解析学講座】

教授：石丸靖二、受島敦美、二科安三、羽山富雄
講師：伊藤雅浩
助教：橋本弘司

【生体情報解析学講座】

教授：柳瀬純男、乾 誠治、原田幸一、三森龍之
准教授：石井俊徳、奥宮敏可
講師：宮山幸彦
助教：熊谷エツ子、森 信子

◆教務員 前田 由紀子

特別看護科同窓会会員の熊本大学医学部保健学科同窓会への加入

熊本大学医学部保健学科同窓会会員の皆様、今年3月に41年間の特別看護科を閉じましたのを期に、今年度から保健学科同窓会に加入させていただきますことを、感謝申し上げます。

特別看護科の同窓会会員は、最後の卒業生第38回生までの41年間で647名でございます。特別看護科同窓会会員は、保健学科同窓会と一緒に、多くの仲間ができますことを、楽しみにいたしています。

私たち今年度の特別看護科同窓会役員は、来年3月までで任期を終え、4月からは新しい役員として同窓会会長（谷口まり子）、副会長（前田ひとみ）で、事務局（医学部保健学科看護学専攻：村上、有松）にバトンタッチをいたします。特別看護科同窓会役員の新メンバーが、保健学科同窓会と合わせて活動してゆきますので、よろしくお願い申し上げます。

特別看護科同窓会会長

花田 妙子

第4回熊本大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日 時 平成19年8月4日(土) 14:00~14:30
 場 所 熊本大学医学部楷樹会館研修室(2F)
 出席者数 73名
 議 長 白川 裕一氏
 (熊本大学医学部附属病院中央放射線部)

〈総会式次第〉

開会の辞
 同窓会会長挨拶
 保健学科長挨拶
 議長選出
 議事

1. 平成18年度事業報告
2. 平成18年度決算報告
 会計監査報告
3. 同窓会会則の一部改正
4. 平成19年度事業計画(案)
5. 平成19年度予算(案)
6. その他

閉会の辞

【 報 告 】

14時、前田副会長より開会が告げられ第4回同窓会総会が開会された。

最初に、欠席の荒木会長に代わって田中副会長が会を代表して挨拶を行い、続いて木原保健学科長のご挨拶が行われた。その後、総会議長を選出後、議事に従い6項目の議案の審議が行われた。

1. 平成18年度事業報告

田中副会長より保健学科のオープンキャンパスへの支援や同窓会会報第2号発行等、1年間の事業が報告された。

2. 平成18年度決算報告並びに会計監査報告

終中会計幹事より18年度の会計について決算状況が報告された。この中で保健学科入学生の会費の納入率が低かったため当初予算より収入が少なかったとの報告があった。



総会

その後、植川会計監査より7月17日に行った会計監査の結果について、会計監査員を代表して報告が行われた。

〈質疑〉

出席者より「収入の寄付金において、今後も寄付を募るのなら、寄付金を出された人の名簿を会報等に載せたらどうか」との意見があり、執行部より「会報で名前を記載する方向で検討しています。」との回答があった。また、「学生の会費納入率が低い何か納入率を上げるために行っていくのか」との質問に対して執行部より「未納の学生に対して、毎年、文章と振り込み用紙を渡して催促し納入率を

上げていきたい」との回答があった。

質疑終了後、採決を行い、出席者の賛成多数で平成18年度事業報告、平成18年度決算報告並びに会計監査報告は承認された。

3. 同窓会会則の一部改正

田中副会長より、医療技術短期大学の閉学と今年の第3回総会で承認されていた教育学部特別教科(看護)教員養成課程同窓会の加入に伴い同窓会会則の一部改正が必要となり、その改正の説明・提案があった。

〈質疑〉

質問等がなく、採決を行い、参加者の賛成多数で同窓会会則一部改正は承認された。引き続き、教育学部特別教科(看護)教員養成課程会長の花田妙子様のお礼のご挨拶がありました。

4. 平成19年度事業計画(案)

田中副会長より、19年度事業計画(案)について説明があり、昨年行った事業を継続し、第3号の同窓会会報の発刊についての説明があった。

5. 平成19年度予算(案)

19年度予算(案)について終中会計幹事より説明があった。

〈質疑〉

出席者より、「予算案において、収入で新入生の70%の会費納入で計上されているが、予算として大丈夫か」と質問があり、執行部より、「昨年同様の%で出している、経過でも回答したように会費未納分の回収にも努め収入を確保したい」との回答があった。その後採決を行い、参加者の賛成多数で平成19年度事業報告(案)、平成19年度会計予算(案)は承認された。

6. その他

その他の追加議題はなかった。

以上で、議案審議が全て終了し、白川議長は、「同窓会の発展の為、会員一人ひとり協力していきましょう」と挨拶後、降壇した。

最後に、前田副会長より「同窓会は毎年8月の第一土曜日に開催されますので、出席者の同期生にも呼びかけていただき、来年さらに多くの同窓生が総会に参加されますようお願いいたします。」と閉会の挨拶があり、14時30分に終了した。



情報交換会

尚、この後、NPOがん患者サポートセンターの宮崎光二セバスチャン様の講演会と、懇親会が行われた。

平成19年8月4日

議事録署名人 前田 浩、春田 昭一

特別講演

～ 思いっきり元気で長生きするために ～

私はガンの研究を通じて、ガンになる過程について多くを学び、それを治療に応用する努力を続けています。人は日々、肉体的ストレスや精神的ストレスにさらされており、このストレスが短期間で改善すればいいのですが、長く続くと生活習慣病などの病気へと進展していきます。言い換えると、ストレスを解消することが、病気にかかりにくくなる重要なポイントになります。

ストレスには活性酸素の発生が関連しています。肉体的ストレスの原因としては、喫煙、アルコール、ウイルスや細菌の感染、有害ミネラル、化学物質、肉食などが挙げられます。これらのストレスの解消に役立つものに、有害ミネラルを排出するデトックス療法、活性酸素除去に効果的な還元水やサプリメントなどがあります。これらの方法はアメリカを始め、多くの国で臨床の場でも利用されているのでクライアントにも紹介しています。また、精神的ストレスも忘れてはなりません。人は、ガンのような重い病気ほど、死や痛み、そして治療への恐れから、強い精神的ス

トレスを受け、さらに病気を悪化させてしまいます。従って、できるだけ早い段階でこのストレスを軽減させてあげなければなりません。私は「心の問題は体を使って、体の問題は心を変えて」をベースに体をつかう心理療法を一人一人にアレンジしながら行っています。

心とからだの健康は、思いっきり元気で長生きするためには大切です。そのため、様々な治療や心理サポート、セラピーや体にやさしい食生活が必要だと考えています。こういったことを基本として、統合医療ネットワーク Vida では、統合医療セカンドオピニオンサービスをはじめ統合医療のコーディネイト、体をつかう心理療法のセッション、インド伝統医学アーユルヴェーダの薬用オイルセラピーを提供しています。その他にも、自然治癒力を高める目的でデトックス療法、食事療法、サプリメント療法などの指導を行なっています。さらに、これらの療法を総合的に取り入れたワークショップ（1 Dayおよび3 Daysプログラム）も行なっています。

統合医療ネットワーク Vida

氏名： 宮崎 セバスチャン
 出身： ブラジル（日系三世）
 履歴： サンパウロカトリック大学医学部卒業、医師免許取得
 熊本大学医学部でがんに関する研究で医学博士号を取得
 統合医療ネットワーク Vida代表
 住所： 〒862-0911 熊本市健軍3-29-8
 電話： 096-368-8162 HP： <http://www.sebastian.net>



学生からの言葉

—熊本大学で5年間を過ごして—

看護学専攻4年
 羽野 梓

私が熊本大学に入学して早5年の月日が経とうとしています。というのは、私は保健学科の前身校である熊本大学医療技術短期大学部看護科を卒業し、そのまま保健学科の3年次に編入したからです。医療技術短期大学部の最後の卒業生であり、また医学部保健学科としての最初の卒業生ということになります。3年次編入を選んだ理由は、更に専門的な知識や技術の向上を目指すとともに、教養を学び自分の視野を広く持ち、多様化する医療・保健・福祉のニーズに対応できる人間性を養いたいと考えたからです。短期大学部では一般に4年間で学ぶ看護学を3年課程で学びます。そのため、専門科目のオンパレードで、

看護という道に日々専念できたという思いがあります。一方大学では、専門以外の教養も学び、看護を多角的な視点で捉えるという姿勢を身につけることに役立ったと思います。卒業後は、熊本大学で学んだ5年間をもとに、少しでも社会に貢献できる生き方を求めてゆきたいと思っています。

—4年間を振り返って—

看護学専攻4年
 吉原 彩

大学生活では様々な人との出会いがあり、多くの貴重なことを経験出来ました。

その中でも看護実習における患者さんやその家族、実習先のスタッフとの出会いは特別なものでした。心身の痛み

を抱えながらも、必死に闘病されている患者さんから生きる強さを感じ、患者さんと向き合い親身に看護されているスタッフの方々から看護の基本を学びました。また、家族も看護の対象であることに気づかされました。

実習を経て、看護の第一歩は人の心に寄り添うことであることを実感し、それができる看護者になりたいと思っています。社会は機械化が進んでいますが、人の気持ちを理解しようとする姿勢を持ち、思いを共有することができるのは人間同士だからこそ可能なことです。看護は、人と人との関わりであるからこそ生命の輝きを肌で感じられる分野であり、そこに携わっていただけることをうれしく思います。

最後に、4年間常に励まし導いてくださった先生方に本当に感謝しています。

臨床実習を通して感じたこと

放射線技術科学専攻 4年
中戸研吾

保健学科に入学して、いつの間にか3年の月日が過ぎ、最上級生となりました。4年生になると講義・実験に加え、病院での臨床実習が始まります。実習内容は病院ごとに決められており、派遣される病院も個人個人で異なります。患者さんを実際に撮影するような実習は行えないので、実習内容は働いている技師の方々の補助・見学が主となります。

自分の知識がどれだけ臨床の現場で役立つのか分らなかったし、実際に患者さんと接することへの不安と緊張で満ち溢れていました。そんな心境で実習に臨んだため、初日の実習では積極的に前へ出て行くことができずにいました。そんな状況を反省し、前日の失敗を踏まえて二日目以降からはできるだけ技師さんの側につき、胸部一般撮影やX線CTの患者さんのポジショニングの補助をしたり、指導してもらったりしました。

自分は元々、企業への就職を希望していたため、臨床の現場で働くことにはあまり興味がありませんでした。しかし、実習をこなしていくうちに病院で働くことの楽しさを知ることができ、就職の選択肢の一つになりました。五月から七月までと短い実習期間でしたが、貴重な経験ができ、とても充実した三ヶ月でした。

臨床実習を終えて

検査技術科学専攻 4年
隈元慎吾

百聞は一見にしかず。臨床実習は見事にその言葉が当てはまると思います。これまで机上の勉強しかしていなくて、理解しにくい、想像しにくいことが多くありました。臨床実習にしてみると、あの知識はこういうことを意味していて、こういうところで必要なのかということが分かり、よりいっそう理解を深めることができました。しかし、

その逆に勉強不足を痛感させられました。臨床検査技師として当たり前の知識を忘れていて、毎日の予習、復習は大変でした。

また、臨床実習先には私たちの先輩方がおられて身近に感じる反面、遠くにも感じ取れる存在でした。とても落ち着いていて、頼れる先輩ばかりで、これが学生と社会人の差なのかなと思いました。そして社会人とはどういうことなのか少しは理解できたと思います。

私も、早く社会人として一人前になれるようにまずは国家試験に合格して、臨床検査技師として患者さん達の手助けをしたいです。そして、医師をはじめその他の医療スタッフと同等に主張できる臨床検査技師を目指したいと思っています。

オープンキャンパス

医学部保健学科のオープンキャンパスは、平成19年度も午前・午後の2回に分けて行われた（参加者数は表1）。医学部長挨拶、保健学科長挨拶、専攻別概要説明・入試説明の後、各専攻が工夫を凝らし、新しく改修されて明るく広くなった実験・実習室を公開した。また、平成19年度入学者選抜試験は、前期日程、後期日程、推薦入学、社会人特別選抜（看護・検査のみ）が実施され、受験者数は表2の通りであった。

表1 平成19年度オープンキャンパス参加者数

高校生等	754人
保護者	16人
合計	770人

表2 平成19年度保健学科入学試験受験者数

	前期日程	後期日程	推薦入学		社会人
看護学専攻	147人	21人	ア:35人	イ:1人	6人
放射線技術科学専攻	69人	19人	9人		
検査技術科学専攻	75人	28人	14人		

看護学専攻推薦入学の「イ」の対象者は、高等学校の衛生看護（科）に関する課程の卒業見込み者

熊本大学医学部保健学科同窓会会則・細則

熊本大学医学部保健学科同窓会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、熊本大学医学部保健学科同窓会（以下「本会」という。）と称する。
- 第2条 本会は、事務局を熊本市本荘2丁目2番1号肥後医育記念館に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その教育の支援と発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 一 会員相互の親睦及び研修に必要な事項
 - 二 母校の教育の支援・発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
 - イ 熊本大学医学部附属看護学校、熊本大学医学部附属助産婦学校、熊本大学医学部附属エックス線技師学校、熊本大学医学部附属診療放射線技師学校、熊本大学医学部附属衛生検査技師学校、熊本大学医学部附属臨床検査技師学校を卒業又は在籍した者
 - ロ 熊本大学医療技術短期大学部を卒業又は在籍した者、熊本大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻を修了又は在籍した者、熊本大学教育学部特別教科（看護）教員養成課程を卒業又は在籍した者
 - ハ 熊本大学医学部保健学科（以下「本学科」という）を卒業又は在籍した者並びに在学生
 - 二 特別会員
 - イ 本学科教員
 - ロ 本学科及び前項の学校の元教員
 - ハ 前項以外のもので理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。
- 第9条 正会員は、会費（終身）として1万円を本学科入学時に納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費、その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
 - 二 副会長 2名
 - 三 理事 12名
(看護6名、衛生3名、放射3名)とする。
 - 四 幹事 6名
 - 五 会計 2名
 - 六 監事 2名
- 第11条 役員は次の職務を行う。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。
 - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
 - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
 - 五 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
 - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
 - 三 理事は、正会員の中から専攻毎に選出し委嘱する。
 - 四 幹事は、会長が委嘱する。
 - 五 監事は、理事会において正会員の中から推薦し、会長が委嘱する。
- 第13条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
補欠による役員の任期は、前任者の残任期間とする。
役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行うものとする。

第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、本学科の学科長を推戴する。
- 第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
- 一 事業及び決算報告
 - 二 事業計画及び予算
 - 三 会則の制定及び改廃
 - 四 役員の選出

五 顧問の推挙

六 その他の必要と認める事項

会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。

第17条 会長は必要と認めたととき、臨時総会を開催することができる。

第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。

第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。

第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。

第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。

第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。

第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。

第24条 理事会は、会長が必要と認めたととき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。

第25条 理事会は、会長が召集し、議長は会長がこれにあたる。

第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。

第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

第6章 会計

第28条 本会の経理は、会費及び寄付金、その他の収入を持って充てる。

第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

附 則

この会則は、平成16年4月1日から施行する。

平成19年4月1日 一部改正

熊本大学医学部保健学科同窓会会計細則

- 1 同窓会費は1万円とし、本学科入学時に一括納入することを原則とする。
- 2 本学科同窓会費1万円は、同窓会運営費として使用する。ただし、この枠を超えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
- 3 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
- 4 幹事代表者名で金融機関に同窓会の口座を設け、担当幹事が通帳・印鑑を管理する。
- 5 同窓会費の徴収は、入学時に行い、徴収後は速やかに同窓会費支払者名簿を作成する。
- 6 会計は、会計年度終了時に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
- 7 本細則の改正は、同窓会総会で行う。

附 則

この会則は、平成16年4月1日から施行する。

同窓会役員

名誉会長：木原 信市（熊本大学医学部保健学科長）

会 長：荒木不次男（熊本保健学科、診療放射線S56卒）

副 会 長：前田 浩（熊本市市民病院、衛生技術S57卒）、田中紀美子（熊本保健学科、医学部附属看護学校S42卒）

理 事：看護6名

尾山タカ子（熊本保健学科）、宮里邦子（熊本保健学科）、本 尚美（熊本医学部附属病院）、幸 史子（熊本医学部附属病院）、高木大地（在校生）、有馬勝洋（在校生）

検査3名

中村直子（熊本医学部附属動物実験施設）

春田昭一（済生会熊本病院）、迫村紘子（在校生）

放射3名

勝田 昇（熊本医学部附属病院）、船間芳憲（熊本保健学科）、池田真菜美（在校生）

幹 事：看護3名

樋本和代（熊本医学部附属病院）、永田まなみ（熊本保健学科）、寺岡祥子（熊本保健学科）

検査2名

熊谷エツ子（熊本保健学科）、石原隆一（熊本市医師会）

放射1名

肥合康弘（熊本保健学科）

会 計：柊中智恵子（熊本保健学科）、千場直美（熊本保健学科）

監 事：沢田道子（熊本医学部附属病院、看護）、植川利之（熊本市市民病院、放射線）

編 集 後 記

希望に満ちた新年をお迎えのことと思います。昨年8月4日に第4回熊本大学医学部保健学科同窓会総会を開催しました。総会後の宮崎光二セバスチャン氏の講演「がん代替え療法最前線一思いつきり長く元気で生きていく」に感銘を受けました。引き続き行われた情報交換会では、同窓生、教員、在校生が親睦を深めました。

当同窓会は、会員のほとんどが医療従事者です。ひとのいのちの輝き・健やかさを愛し、そのためになることなら努力を惜しまない人の集まりであることを再確認しました。当保健学科は今年の3月に第1期生を輩出します。彼・彼女らは、いのちに関わる仕事につくことを胸深く刻んで巣立つと思います。そして誰からも頼られる医療従事者になり、第一線で活躍する日が遠くないことを信じています。

これまででも、これからも私たちの同窓会が、人材育成支援組織ならびに卒業生の心の拠り所となるように、会員の皆様とともに発展させていきたいと考えています。

今年も、同窓会総会についてのご案内を、熊本大学保健学科同窓会のホームページ (<http://www.hs.kumamoto-u.ac.jp/%7Edohsohkai/>) と熊日新聞のタウンページに掲載したいと計画しています。第5回同窓会総会ならびに情報交換会（2008.8.4）で、皆様とお会いできることを楽しみにしています。

保健学科同窓会幹事 熊谷エツ子
（衛生検査技師学校 1期生）